

令和7年度

教職課程

自己点検評価報告書

長野県立大学

令和8年3月

長野県立大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・健康発達学部（食健康学科、こども学科）

大学としての全体評価

長野県立大学教職課程では、健康発達学部食健康学科において栄養教諭1種免許状が、同学部こども学科において幼稚園教諭1種免許状が取得可能である。また大学院健康栄養科学研究科において、栄養教諭専修免許課程の令和9年度開設に向けて申請中である*。

長野県立大学は2018年の創設以来、リーダーとしてふさわしい人間力、新たな地域社会を創造する力、広い視野と多様な価値観を受容する力、人生の羅針盤となる教養力、社会で拠って立つ礎となる専門力の五つの力を身につけた人を学士として輩出することを教育目標として掲げ、1年次全寮制や海外プログラムの実施、少人数制の教育、発信力ゼミや象山学等の特徴的な全学共通科目および充実した専門教育科目等を通じてこの目標の実現に取り組んできた。

教職課程もこの総合的な学士力を基礎に展開され、広くて深い国際的視野と豊かなコミュニケーション能力とともに、確かな教養と専門性を持って地域社会を創造するリーダーとしての教員を養成・輩出してきている。

今後も社会と地域のニーズに応えながら、教職を志望する学生たちの主体的な学びを支えるカリキュラムおよび指導体制を充実させるとともに、大学院健康栄養科学研究科における専修免許課程の設置に向けて準備していきたいと考えている。

長野県立大学

学長 金田一 真澄

* ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期等が変更となる可能性があります。

令和7年度

教職課程

自己点検評価報告書

令和8年3月

長野県立大学健康発達学部

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	3
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	6
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	12
III	総合評価	21
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	21
V	現況基礎データ一覧	22

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：長野県立大学健康発達学部
- (2) 所在地：長野県長野市三輪 8 - 4 9 - 7
- (3) 学生数及び教員数

(令和 8 年 3 月 3 1 日現在)

学生数： 教職課程履修 210 名／学部全体 293 名

教員数： 教職課程科目担当（教職・教科とも）16 名／学部全体 35 名

2 特色

長野県立大学では、令和 7 年度現在、1 学部において、下記のように、教員免許課程が開設されている。

- 健康発達学部
 - ・食健康学科：栄養教諭一種免許状
 - ・こども学科：幼稚園教諭一種免許状

長野県立大学は 2018 年 4 月に開学した新しい大学である。開学にあたって 2016 年 10 月に設置認可を文部科学省に申請した際に、上記教職課程の設置も同時に申請し、2017 年 8 月に文部科学省より認可された。

長野県立大学教職課程では、教科の専門性と教養を身に付け、こどもや保護者に関わる者としての豊かな人間性と、異なる文化や背景を持った者に対する理解力やコミュニケーション力を身に付け、教育現場において、常に最適な教育の内容・方法について探究・実践する、地域に貢献できる自立した教員を養成することを理念としている。

この理念を実現させるため、教員養成に係る各学科においては、充実した教育課程を体系的に組み立て、学生は、免許基準に定められている単位数を十分に上回る単位数の様々な科目を履修することとし、次のような教員を養成することを目指している点に特色があると言える。

- ・専門性と実践力のある教員
- ・他者との関わりを大切にし、他者を支える力と意思を持った教員
- ・地域の特性を学び、地域に貢献する熱意を持った教員

また、食健康学科の栄養教諭養成課程、こども学科の幼稚園教諭養成課程にそれぞれにおいて目指す教員像は以下のとおりである。

- 食健康学科における教員養成

カリキュラム編成、効果的な教育実習計画の策定・実施、学校等との連携、学生に対するきめ細かな指導・評価を通して、次のような栄養教諭の養成を目指します。

- ・ 専門的知識と技術を身に付け、論理的・科学的に考察する力を持った教員
- ・ 人との関わりを大切にし、食を通して人の健康を支える力を持った教員
- ・ 食文化や食習慣について探究し、食を通じた健康に関する活動を実践する力を持った教員

● こども学科における教員養成

カリキュラム編成、効果的な教育実習計画の策定・実施、幼稚園等との連携、学生に対するきめ細かな指導・評価を通して、次のような幼稚園教諭の養成を目指します。

- ・ 健やかにこどもが育つための課題を明らかにし、地域や社会の特性を生かし、専門的知識と支援力を持った教員
- ・ 教育の場でこどもと保護者を支え、より良い子育て・子育て環境を創造する論理・実践力を持った教員
- ・ 他者との協働によって課題を解決するための課題発見、情報収集、分析思考力、表現力、コミュニケーション力などの汎用的能力を持った教員

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料 0-1：長野県立大学ホームページ「法令に基づく教育情報の公開」>「教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 関係（教職課程）」>「教員養成に係る組織及び教員数」
- ・ 資料 0-2：長野県立大学ホームページ「法令に基づく教育情報の公開」>「教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 関係（教職課程）」>「1. 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関する事（第 22 条の 6 第 1 項第 1 号）」

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

ホームページ上に随時情報を公開し、長野県立大学教職課程の理念・目的、その他の情報を共有できるようにしている。また、学生便覧上に教職課程のカリキュラムを掲載し、教職課程で学ぶ学生の学びのプロセスを理解し、教職員間で共通理解を得られるようにしている。

さらに、長野県立大学 FD・SD 委員会の承認のもと、令和 7 年 4 月 9 日（水）に教職課程部会主催の「長野県立大学教職課程の目標と自己点検評価について」という FD 研修会を実施し、教職課程の目標と平成 6 年度の自己点検評価を通じた本学教職課程の現状と課題について健康発達学部全教職員の共通理解を形成するための取り組みを行った。

〔長所・特色〕

本学の教職課程は栄養教諭養成課程および幼稚園教諭養成課程教職課程の 2 つだけで、履修学生数・担当教員数も小規模なので、共通理解を得られやすく、また、教職員の協働的な取り組みも迅速かつ円滑に行いやすい点に、本学の長所と特色があると言える。

また栄養教諭養成課程の専任教員と幼稚園教諭養成課程の専任教員が互いに他方の授業科目を担当し、協働的な取り組みを促進している。

〔取り組み上の課題〕

FD 活動を通じて平成 6 年度に実施した教職課程の自己点検評価を確認することで教職員の教職課程の目標及び現状と課題についての理解はより深まったと感じている。今後もこの取り組みを継続して行く必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1：長野県立大学ホームページ>法令に基づく教育情報の公開>「教育職

らのアンケート調査や問い合わせに関しても教職課程部会が窓口となることが明確となっており、迅速に対応することができる点に長所と特色があるといえよう。

〔取り組み上の課題〕

現在次年度に向けて 栄養教諭養成課程と幼稚園教諭養成課程の取り組みの違いに対する相互理解を構築し、教職課程の統合的な運営をする必要があると考えている。特に、実習連絡会の定期的な開催を実施し、実習運営上の課題等を確認していきたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-2-1：「長野県立大学教務委員会規程」
- ・資料1-2-2：「教職課程部会細則」
- ・資料1-2-3：長野県立大学ホームページ「法令に基づく教育情報の公開」>「教育職員免許法施行規則第22条の6関係(教職課程)」>「教員養成に係る組織及び教員数」

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

(学生の確保)

学生の確保については以下に示す各学科のアドミッションポリシーにもとづいておこなっている。各学科のアドミッションポリシーは以下のとおりである。

- 食健康学科
 - ・寮生活を通して、豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、協働して目標を達成することを志す者。
 - ・管理栄養士としての専門性を活かして、健康長寿の発展に貢献したい者
 - ・英語集中プログラムと海外プログラムを通して、「読む・聞く・書く・話す」の 4 技能を体系的・実践的に身につけ、グローバル社会で活躍したい者
 - ・社会生活や日常生活の中から、健康・栄養・食に関する課題を発見し、解決方法を見いだそうとする者
 - ・栄養学の土台となる化学や生物などの基礎学力を身につけている者
 - ・人々の生命を支える食の営みを、科学的に探究することに情熱のある者
- こども学科
 - ・こどもを愛し、その幸せを実現する意欲と志を持っている者
 - ・こどもの健やかな成長・発達を支援する環境や教育について、科学的に探究し、行動する習慣と粘り強さを持っている者
 - ・幼稚園教諭免許状、保育士資格を取得し、その専門性を活かして地域に貢献したいという意欲を持っている者
 - ・自ら求めて考え、行動し、協働しながら学び、より良い保育を創造する多様な資質を持っている者
 - ・英語集中プログラムと海外プログラムを通して、「読む・聞く・書く・話す」の 4 技能を体系的・実践的に身につけ、グローバル社会で活躍したい者

- ・寮生活を通して、豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、協働して目標を達成することを志す者

(学生の育成)

学生の育成については、各学科のディプロマポリシーに掲げる資質・能力を身につけることができるよう取り組んでいる。各学科のディプロマポリシーは以下のとおりである。

● 食健康学科

食健康学科は、教育目標を実現するために設けた所定の専門教育科目と総合教育科目を履修することにより、大学の「基盤学士力」に加えて、次に掲げる資質・能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学位を授与します。

- ・高いコミュニケーション能力とリーダーの資質をもち、栄養・食を通して人々の健康を支えることができる力
- ・地域社会に貢献するとともに、グローバルに発信し、展開することができる力
- ・持続可能な社会を担う一員としての自覚をもち、生涯にわたり学び続けることができる力
- ・専門的知識と技術を身につけ、論理的・科学的に思考し、実践することができる力

● こども学科

こども学科は、教育目標を実現するために設けた所定の専門教育科目と総合教育科目を履修することにより、大学の「基盤学士力」に加えて、次に掲げる資質・能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学位を授与します。

- ・保育や子育てを支える専門的知識や論理を理解し、社会に還元できる力
- ・地域や社会の特性をふまえ、よりよい保育・子育て環境を計画し、実践できる力
- ・豊かな表現力や感受性を備え、主体的に課題解決や新たな価値を創造できる力
- ・保育者として学び続け、他者との協働によって課題を解決するための課題発見、情報収集、分析思考力、発信力、コミュニケーション力などの汎用的能力

また、健康発達学部では教職課程の授業科目を担当する教員の他にも、健康・栄養・福祉に関する専門教員が多数配置されるとともに、学部共通科目「健康発達概論」を通じ

て、教職の周辺領域に関する広範で深い知識・技能を育成できるようになっている。

〔長所・特色〕

1年次全寮制、総合教育科目「発信力ゼミ」、各学科の実施する海外プログラムによって、現代の教員に求められる資質能力であるコミュニケーション能力と国際性を学生の中に育む体制となっている。また、本学では授業科目におけるアクティブラーニングの活用を推奨しており、同時に学生の主体的・実践的な学習活動を支援する「キャンパスコモン」と名づけられたラーニングスペースやwi-fi環境などの設備が充実している。さらに、教職課程に関しては、実践力の涵養のために実習を重視し、各種実習室を充実させている。特にこども学科では実習支援室を設置して職員1名を配置し、学生の学外実習に対するきめ細やかな支援を実施している。

このような長野県立大学の学びの特色とそれに対応した教育の体制・環境・設備の充実、学生の確保・育成において大きな長所となっているとあってよいだろう。

〔取り組み上の課題〕

食健康学科では栄養教諭養成課程を履修する学生が1年次に一定数いるものの、学年を経るにつれ減少する傾向がある。職業としての教員の魅力を一層アピールしていくことが必要である。

こども学科ではほとんどの学生が幼稚園教諭免許の取得を希望し、実際に卒業時に免許を取得している。したがって、昨年度と同様に教職に対する学生の高い意欲とニーズを受け止め、より高い資質形成につなげるべく努力する必要がある。その一環として令和7年度入学生より「履修カルテ」を電子システム上で作成する取り組みを開始した。そのうち「履修カルテ②自己評価シート」の記入が令和8年度4月から開始されるので、円滑なシステムの運用と履修カルテを通じた学生個々への指導の充実を図ることが次年度の課題となると考えている。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1：長野県立大学ホームページ>大学紹介>大学概要>3つのポリシー>「アドミッションポリシー」および「ディプロマポリシー」

・資料2-1-2：長野県立大学ホームページ>キャンパスガイド

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

● 全学的な取り組み

長野県立大学ではキャリアセンターを設置し、入学から卒業まで、一貫した体系的キャリア支援を行うことにより、学生が自ら納得する進路を選択できるようにサポートを行っている。このサポートは卒業時の進路選択に終わることなく、生涯にわたるキャリアの土台となる人間力を育み、主体的な自身のキャリアデザインをサポート、希望の進路へと導くことに主眼を置いておこなわれている。

さらに健康発達学部食健康学科およびこども学科では取得免許・資格にもとづく高度な専門性を生かしたキャリア形成をサポートするために、以下のような取り組みを行っている。

● 食健康学科

〔現状説明〕

食健康学科では、教職対策対応委員会を設置しており、担当教員を中心に、各ゼミ担当者も含めて、キャリアに関する相談や教員採用試験の対策を行っている。具体的には、2年次3学期、3年次3学期に教員採用試験ガイダンスを行っている。2年次には教員採用試験と公務員試験の違いや自治体ごとの傾向の違いについて説明し、興味のある自治体の状況把握を行っている。加えて、近年は教員採用試験の3年次受験を行っている自治体が多いことから、その対策も行っている。3年次には、採用試験に合格した学生からの経験談を話してもらい、具体的な試験勉強の計画を立ててもらっている。

3年次4学期～4年次1学期にかけては、希望者を対象に、就職した卒業生の学校訪問を行い、教育現場の課題や試験対策についても話を聞く機会を設けている。4年次1学期からは、面接、小論文、場面指導、模擬授業の対策を適宜行っている。

〔長所・特色〕

教職希望者が非常に少ないため、きめ細やかな指導ができること、学生同士が協力して

試験に取り組む体制が作れていることが特色といえる。例えば、集団面接試験の対策では、4年生だけで行うことが難しいため、下級生にも協力を仰いでおり、早い段階から教員採用試験や自身のキャリアについて考える取り組みが出来ている。

〔取り組み上の課題〕

栄養教諭の採用数が少ない状態が続いており1名の枠を学生同士が競う状況も多く、臨時の教員として働く場合も多い。臨時教員として働く卒業生についても採用試験対策を継続しているものの、栄養教諭の業務も多いことから工夫しながら支援を行う必要がある。また令和9年度から栄養教諭専修免許状の課程申請を行っており、大学院への進学へとつなげていくことも課題となっている。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料2-2-1：ガイダンス資料

● こども学科

〔現状説明〕

キャリアセンターの活動とは別にこども学科ではキャリアワーキンググループ委員が中心となって学生のキャリア支援を行っている。具体的には3年次より幼児教育・保育職向けガイダンスを実施し、さらに適宜個別面談・指導を実施している。また、毎年就職試験を経験した学生からの情報をもとに『就職試験内容報告集』を作成し、学生たちに配布している。

その他に、3年次の「こども学ゼミⅡ」および4年次の「卒業研究」のゼミ担当者が所属するゼミ生の進路相談に応じ、キャリア支援を行っている。また、幼稚園教諭を含めた専門職に関する求人情報については実習支援室に集約し、学生が自由に閲覧できるようにしている。

〔長所・特色〕

少人数制の教育のメリットを最大限生かし、キャリアセンター、学科キャリアワーキンググループ委員、ゼミ担当者の3方面からきめ細かな支援を手厚く行っている点は大きな特色といえるだろう。

〔取り組み上の課題〕

現在のところ早期退職者等のトラブルの情報は受けていないが、今後も経過を見守り、学生のキャリア形成に対して持っている希望と就職実態のミスマッチを防ぐために今後も注視していく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-2-2：「2024年度 長野県立大学 健康発達学部 こども学科 就職試験内容報告集 ～4期生就職活動の記録～」

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

カリキュラムの編成・実施に当たってはカリキュラムポリシーにもとづきおこなっている。各学科のカリキュラムポリシーは以下のとおりである。

- 食健康学科
 - ・多様な講義・実験・実習等を活用して、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通じて、コミュニケーション能力、さらにはリーダーシップを涵養する。
 - ・地域社会の構造を理解したうえで、健康・栄養・食に関する課題解決につながる教育を行う。
 - ・国際的視野を身につけ、主体的な行動力を育成する。
 - ・日進月歩の健康・栄養・食分野において、新しい知識や技術の習得を通して、学び続けることの重要性を理解できる教育を行う。
 - ・専門教育科目において、栄養士免許、管理栄養士の国家試験受験資格のほか、栄養教諭一種免許状が取得できるよう系統的・段階的に配置して基礎と実践の関係性を重視する教育を行う。
 - ・専門教育科目で学んだ知識と技術をもとに、基礎と実践を結びつけ、論理的・科学的に発展させるための教育を行う。
- こども学科
 - ・専門性の基礎となる知識や技能を獲得する科目を必修とし、学修によって身につけたものを社会に還元するための幼稚園教諭免許状や保育士資格が取得できる養成プログラム。
 - ・こども、子育ての状況や課題について広く学ぶと共に、保育・幼児教育の基盤となる自然や文化、地域的な特徴などの環境について理解し、海外プログラム等の異文化体験を含み、そこに成り立つ保育や教育のあり方を学ぶ科目。

- ・ こどもの主体性や表現力を育成する保育者としての基礎力を培うための体験的な表現科目、及び今日的な課題の実践的理解と課題解決力を醸成する演習・実習科目の充実。
- ・ 学生自身の主体的な問題意識に応じ、柔軟かつ多様な思考力、創造力、実践力を育むための選択的履修を重視したカリキュラムと双方向による少人数ゼミの充実。

上記のカリキュラムポリシーのもと、教職課程に関しては以下の履修規定科目のようにカリキュラムが編成され、実施されている。

1. 総合教育科目（教員免許法施行規則第66条の6）

長野県立大学学則の定めるところにより、総合教育科目を26単位以上修得する。

ただし、下記の科目の単位数は必ず修得しなければならない。

教育職員免許法施行規則に定める科目		左記に対応する本学の開設科目		
科目名	最低修得単位	科目名	単位	
			必修	選択
日本国憲法	2	憲法	2	
体育	2	健康と運動科学Ⅰ	1	
		健康と運動科学Ⅱ	1	
外国語コミュニケーション	2	Basic English CommunicationⅠ	1	
		Basic English CommunicationⅡ	1	
情報機器の操作	2	情報リテラシーⅠ	1	
		情報リテラシーⅡ	1	
計	8		8	

2. 専門教育科目

(1) 栄養教諭一種免許状

① 栄養に係る教育に関する科目

教育職員免許法施行規則に定める科目		左記に対応する本学の開設科目			
科目名	最低修得単位	科目名	単位		履修年次
			必修	選択	
栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	2	学校栄養教育論	2		3年
幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項					
食生活に関する歴史的及び文化的事項		学校栄養教育実践論	2		
食に関する指導の方法に関する事項					

計	4		4		
---	---	--	---	--	--

②教育の基礎的理解に関する科目

教育職員免許法施行規則に定める科目			左記に対応する本学の開設科目			
科目区分	科目名	最低修得単位	科目名	単位		履修年次
				必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育原理	1		2年
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職論	1		1年
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度論	2		3年
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		発達と教育の心理学	2		2年
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	1		3年
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論	1		2年
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳教育と総合的な学習論	1		2年
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		特別活動論	1		2年
	生徒指導の理論及び方法		教育方法論	1		3年
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		生徒指導論	2		3年
教育実践に関する科目	栄養教育実習	2	学校栄養教育実習事前事後指導	1		4年
			学校栄養教育実習	1		4年
	教職実践演習	2	教職実践演習	2		4年
計		18		18		

(2) 幼稚園教諭一種免許状

①領域及び保育内容の指導法に関する科目

教育職員免許法施行規則に定める科目			左記に対応する本学の開設科目			
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位	科目名	単位		履修年次
				必修	選択	

領域に関する専門的事項	健康	16	こどもと健康	1		1年
	人間関係		こどもと人間関係	1		1年
	環境		こどもと環境	1		1年
	言葉		こどもと言葉	2		1年
	表現		こどもと表現(造形)	2		2年
こどもと表現(音楽)			1		1年	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		保育内容総論	1		2年
			保育の指導法	2		2年
			保育内容(健康)	2		2年
			保育内容(人間関係)	2		3年
			保育内容(環境)	2		2年
			保育内容(言葉)	2		1年
			保育内容(表現)	2		2年
計			16		21	

②大学が独自に設定する科目

教育教員免許法施行規則に定める科目		左記に対応する本学の開設科目			
科目名	最低修得単位	科目名	単位		履修年次
			必修	選択	
大学が独自に設定する科目	14	音楽表現演習Ⅰ	1		1年
		音楽表現演習ⅡA,B	1		1年
		こどもの保健		2	2年
		こども学	2		2年
		身体表現演習		1	2年
		ドラマ表現演習		1	2年
		造形表現演習		1	3年
		最低修得単位数を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」及び、上記科目から5単位以上、計14単位以上を修得	(9)		
計	14		13	5	

③教育の基礎的理解に関する科目

教育職員免許法施行規則に定める科目			左記に対応する本学の開設科目			
科目名		最低修得単位	科目名	単位		履修年次
				必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	1		1年
			幼児教育原理	1		1年
			保育原理	2		1年
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		保育者論	2		1年
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		保育経営論	1		4年
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		発達と教育の心理学	2		1年
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	2		3年
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	保育カリキュラム論	2		4年		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する項目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	4	教育の方法と技術	1		3年
	幼児理解の理論及び方法		保育とICT教育	1		3年
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		幼児理解の理論と方法	1		2年
			保育臨床相談	1		2年
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習Ⅰ事前事後指導	1		2年
			教育実習Ⅰ	2		2年
			教育実習Ⅱ事前事後指導	1		4年
			教育実習Ⅱ	2		4年
	学校体験活動		2	—		
教職実践演習	保育・教職実践演習	2			4年	
計		21		25		

〔長所・特色〕

文部科学省の指定する科目を網羅しているのは当然のこととして、基準項目2-1でも述べたように、各学科の実施する海外プログラムによって、現代の教員に求められる資質能力であるコミュニケーション能力と国際性を学生の中に育むカリキュラムとなっている点に長所と特色があるといえよう。

また、こども学科の幼稚園教諭養成課程では「大学が独自に設定する科目」を必修13科目、選択5科目と豊富に設定し、教職に関するより広く深い学習を可能としている点も長所と特色といえる。

〔取り組み上の課題〕

カリキュラムに関しては昨年度からの変更はない。今後はシラバスや授業評価アンケート結果を確認する等により、教職課程として適切であるかを精査していく必要があると考えている。

また、先述したようにこども学科に関しては今年度入学生より「履修カルテ」を学務システム上で電子化して作成することとなった。次年度以降は、特に「履修カルテ②自己評価シート」を受講生にweb上で入力してもらうことになるので、システムの運用が円滑に行われるよう取り組んで行く必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：長野県立大学ホームページ>大学紹介>大学概要>3つのポリシー>「カリキュラムポリシー」
- ・資料3-1-2：『令和7年（2025年）度入学 長野県立大学 学生便覧』pp.22-25

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

● 全学的な取り組み

長野県立大学ではソーシャル・イノベーション創出センター（CSI）を中心に地域との連携に取り組んでいる。また、その他にも様々な地域との連携を行い、その一環として学生の教員としての実践的指導力を育成する取り組みが行われている。各学科の取り組みは以下の通りである。

● 食健康学科

〔現状説明〕

食健康学科では、栄養教諭の教職課程履修者を中心に児童館における調理を含む食育活動を行うなど、実践活動を設定している。また、現役の栄養教諭教員からの講演を設定したり、栄養教諭の働き方を理解するために小学校・中学校見学、特別支援学校での見学等を設定したりしている。このような児童や現場の栄養教諭の様子を知ることを意識した教育を通して学生の実践力養成に取り組んでいる。

また長野市との連携事業により、学校栄養教育実習を行っており、実習を通して学生が実践力を身に付けるだけでなく、現場の教員からは「教育実習生と関わることで、教員自身も教育的な効果が得られる」との評価を受けている。加えて、長野県の栄養教諭を対象とした研修において、食健康学科の教員が講師を務めるなど、実践現場の教員支援を通じた地域貢献も果たしている。

〔長所・特色〕

少人数で教育を行っているからこそ、上級生・下級生の関わりも多く、情報交換を行いながら教育に取り組んでいる。また、卒業生との交流も多く、キャリアモデルが身近にいることも長所といえる。長野県立大学大学院健康栄養科学研究科にも、現職の栄養教諭の院生が在籍しており、教育現場の状況を知りやすい環境といえる。

〔取り組み上の課題〕

免許取得者が少ないため、多様な学生同士で意見交換をする機会は少ない。そのため、学年間交流や学外者との交流を増やす等の工夫が必要と考えている。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：長野県立大学との長野市の連携事業

● こども学科

〔現状説明〕

こども学科では2018年からの長野市との包括連携協定「長野市立幼保連携型認定こども園運営に係る連携協定」、2023年からの飯綱町との包括連携協定「教育・保育及び子育て

て支援分野における連携に関する連携協定」の一環として、学生が保育現場を経験する機会を多く設けている。内容的には各種授業科目内の活動として学生が保育体験をしたり、授業外の活動として地域貢献サークル「ぐるんぱ」（所属学生のほとんどがこども学科の学生である）が保育現場に赴き、様々な活動行ったりしている。また、学科教員がセンター長を務める長野県教育委員会幼児教育支援センター主催の小学校および幼稚園教諭・保育士等を対象とした公開研究会や研修会に学生が参加するなど教育委員会との連携による学びの機会を設けている。

その他に、大学に最も近い保育所である三輪保育園と連携し、保育園での学生の保育体験や、大学に三輪保育園の園児たちを招いてのゼミ発表、卒業研究の調査活動などを行っており、大学内の「ひろば」で行われる地域の親子を対象とした子育て支援の実践や、長野市との連携事業としての「赤ちゃんママのおしゃべり会」等を学生が計画・実施したりなど、豊富な地域との連携を実施している。

また、このような学生の現場体験だけでなく、長野県教育委員会幼児教育支援センターや飯綱町での保育研修会に学科教員が講師として参加し、県の幼児教育施設の発展に寄与するとともに、現場からの意見を受け止め、教員養成に反映させている。

〔長所・特色〕

県立大学という強みを生かして地域との多様な連携を実施し、授業内外で学生が保育現場を経験する機会が豊富に得られており、特にサークル活動等を通じて学生が主体的かつ意欲的にこの連携に取り組むことができているのがこども学科の特色といえるだろう。

〔取り組み上の課題〕

令和6年度の自己点検評価報告書では、令和7年度に向けてのこの項目の課題として、「これらの取り組みをさらに他の市町村に広げていく必要があると考えている」と述べた。今年度は実際に令和8年度からの他の自治体との新たな連携に向けて準備を進めてきている。令和8年度はこの取り組みを円滑にスタートできるよう取り組んでいきたいと考えている。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-2：長野県立大学ホームページ＞研究・地域連携＞ソーシャル・イノベーション創出センター（CSI）＞ソーシャル・イノベーション創出に向けたアクション＞「地域との連携」

Ⅲ. 総合評価

昨年度に引き続き今年度も自己点検を通じて、本学の特色・長所を生かした教員養成が実現できていることを確認できた。特に本学の特徴である国際的視野とコミュニケーション能力の涵養、少人数制教育によるきめ細やかな指導、また、公立大学としての特徴を生かした地域との連携は、教職課程の展開においても大きな基盤となっている。

次年度は、大学院健康栄養科学研究科における栄養教諭専修免許課程の設置に向けての準備と、こども学科の令和7年度入学生から実施している履修カルテのシステム上での円滑な運用が課題となる。

Ⅳ 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

『令和7年度長野県立大学 教職課程 自己点検評価報告書』(以下「本報告書」とする)は、教育職員免許法施行規則第二十二條の八にしたがい、これまで長野県立大学が認定を受けた教職課程の教育課程、教育研究実施組織、教育実習並びに施設及び設備等の状況について、点検及び評価を行い、その結果を公表するものである。

本報告書は以下のような審議過程を経て承認された。

- ・ 令和8年3月24日 教職課程部会承認
- ・ 令和8年3月25日 教務委員会報告
- ・ 令和8年3月30日 内部質保証委員会報告
- ・ 令和8年4月8日 健康発達学部教員会議承認
- ・ 令和8年5月19日 大学運営委員会承認
- ・ 令和8年5月19日 教育研究審議会承認

V 現況基礎データ一覧

令和8年3月31日現在

法人名 公立大学法人長野県立大学					
大学・学部名 長野県立大学・健康発達学部					
学科・コース名（必要な場合） 食健康学科、こども学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					72
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					68
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					46
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					10
④のうち、正規採用者数					10
④のうち、臨時的任用者数					0
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他(助手)
教員数	16	10	2	2	5
相談員・支援員など専門職員数 1 (こども学科)					